



ポラン通信



vol.5

前回に引き続き！春の予防特集！

2022年4月

さて！前回に引き続き、暖かくなったら必要となる感染症予防のお話をいたします。知っているようで知らない「フィラリア症」についてのお話です。ワンちゃんだけでなく、にゃんこも必要だけどページが足りなくなりました！

突然の病院あるある4コマ

フィラリア薬 あるある

蚊の体内でフィラリア幼虫が感染幼虫になるまで成長するには気温が必要。HDUという計算で求めた数値です。

5月と12月です

都内でのフィラリア症予防は

去年飲ませたお薬を思い出してください

飲み忘れは成虫の本の可能性アリです

4コマ

フィラリア薬を知らずに予防薬を体調くすお薬か

① 5-12月のシーズンの最初必ずフィラリア検査を！ (指血)

② 12月まで忘れずに投薬を！

お願いします。

なんでモ相談してね!!

フィラリアは予防すべきか

新人獣医師が動物愛護について学ぶ機会には、保健所で殺処分される動物とかの話ではありません。どちらかというと実際に勤務する病院での、飼い主さんへの啓発不足や勘違い、ペットへの感覚の違いで命を落とす動物がいる現実を知った時です。そして、関わる獣医師の責任でもあります。なにが言いたいかというと「予防できる病気で死ぬ動物を減らしたい」ということです。最近では減りましたが、フィラリア症で苦しみ亡くなる動物を私は沢山みてきました。今は予防で助かるのです。「ちゃんと予防していれば」と後悔する飼い主さんを減らすためにも、どうか今回のポラン通信は捨てずにとっておいてくださいな。

今までしてなかった方も予防を！！

そもそもフィラリア症とは？

フィラリア症は犬糸状虫症とも言われ、蚊が媒介する寄生虫の病気です。フィラリアに感染した犬を蚊が吸血→蚊の体内にフィラリア幼虫が取り込まれ成長→犬を吸血した時に幼虫が侵入→皮膚、筋肉を脱皮しながら成長→血管にたどり着くと急速に成長しながら心臓の肺動脈に寄生→メスのフィラリアがミクロフィラリアを産む。大量に心臓に寄生すると右心不全、肝臓腎臓にも影響し、死に至る病気です。かつては犬は外飼育され、予防法もなかったもので、蚊に刺される夏を繰り返すたびフィラリアは大量に寄生し、犬の平均寿命は7歳くらいと言われていました・・・。

フィラリア症のお薬とは？

フィラリア症予防薬はズバリ、虫下しです。蚊に刺されること、フィラリアに感染することは防ぐことはできません！しかし、月に一度、フィラリア症予防薬(虫下し)を投薬することで、フィラリアの幼虫が成虫になる前に、駆除することができるのです。フィラリア症は、フィラリアの成虫が心臓に寄生することで発症します。その予防とは、『月に一度虫下しすることで、フィラリアの幼虫を駆除すること。』なのです！よく、フィラリアのお薬は「蚊がいなくなってから1ヶ月後まで」と言われますが、蚊に刺されたあと、幼虫を駆除するので、当然ですね。

現在、フィラリアのお薬は様々なタイプがありますので獣医さんとよく相談してくださいね。そして最後12月まで忘れずに。

